



寺報

2024年(令和6年)

No. 339

2月号

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
En [えん]

縁

高名なお坊さん(その26)

達磨大師(西暦378年~528年)南インド香至國の王子

達磨大師は今から1600年ほど前、南インドにあるカンチープラム(香至国)の第三王子として誕生し、幼名は菩提多羅といいました。

若い頃に父である国王が亡くなり、菩提多羅王子は国政を二人の兄に頼み、お釈迦様から二十七代目にあたる般若多羅尊者のもとに出家し、『菩提達磨』の僧名を頂きました。

般若多羅尊者に就いて修行すること四十年に及び、般若多羅尊者から釈尊正伝の第二十八代目を継承しましたが、師より「六十七年間はインドを布教し、その後に中国に正法を伝えなさい」と遺言され、それに従って老年になってから、海路を三年かかって中国・広州の港に上陸しました。



達磨大師



達磨大師像



木造達磨大師坐像
(尼崎市指定文化財)

梁の武帝と問答し、縁かなわず揚子江を渡って洛陽の都のはずれ、嵩山少林寺の裏山の洞窟に住み、面壁九年の坐禅をするうちに求道者・神光が現れ、その熱意に感じ中国で始めて弟子をとり、慧可と名付けました。

この慧可にすべてを伝え、中国に禪宗の基礎を築かれたのですが、その教えを理解できない者たちによって毒殺され、熊耳山定林寺に葬られました。

令和四年版『求不得苦』、令和五年版『五陰盛苦』。

住職レターハイライト

善教寺法要案内パンフレット(令和六年版)、ようやく完成しました。このパンフレット作製、私にとつては、良き区切りのような思いであります。「よし、また今年も、頑張ろう!」みたいな。

パンフレットの表紙タイトル、ここ数年、『苦』のシリーズでした。令和二年版『愛別離苦』、令和三年版『怨憎会苦』

表装を修復。お軸の各所に、折り目のような跡が残り、文字は薄くなっています。それだけ年代物だという証でしょう。

『七高僧シリーズ』と題して、これから七年かけて、善教寺法要案内パンフレットの表紙タイトルとしていきますので、今後を楽しみにしておいて下さいね。



善教寺パンフレット表紙写真

(元禄四年)、本願寺より拝受しました。一九九八年(平成十年)に、

薩薩を七高僧の一番最初にあげて尊敬され、仏教では、お釈迦さまに次いで二番目に偉大な方です。

第一声は「人生は苦なり」でした。人生の苦しみを「四苦」、生苦・老苦・病苦・死苦、それに前述の四つの「苦」を加えて「四苦八苦」と説かれています。そろそろ、「苦」から解放されても良い頃かな?と。

令和六年版から七高僧シリーズとなりました。先ず、第一祖の龍樹菩薩。西暦百五十年~二百五十年頃の、インドの高僧。親鸞聖人は龍樹菩薩を七高僧の一番最初にあげて尊敬され、仏教では、お釈迦さまに次いで二番目に偉大な方です。

ゆかりの寺シリーズ その29

服部半蔵 ゆかりの寺

「西念寺（浄土宗）」



西念寺は、服部半蔵正成公の開基によって、松平信康公（徳川家康公嫡男）の供養の為に開創された。正成公は武士として徳川家康公に仕え、伊賀・甲賀の忍者を率いて、また槍の名手として「鬼半蔵」の異名をとり数々の武功を重ね、家康公より槍を拝領。この槍は西念寺寺宝として伝わり、新宿区指定文化財に登録されていいる。

天正18年（1590）、家康公が江戸に入った際、半蔵正成公も随伴。この時、信康公の御靈を弔うために剃髪出家し、名を「西念」と号した。

麹町清水谷（今のホテルニューオータニ近く清水谷公園付近）



西念寺本堂

に庵を設け、遠州以来奉持していた信康公の遺髪をここに埋めて、専称念佛の日々を送った。

文禄2年（1593）半蔵正成公は、家康公より金300両を賜り、信康公の御靈と徳川家忠魂の冥福を祈り、また戦で討ち取った人々の追善供養のために、一宇を建立するよう内命を受けたと記録されている。

寛永11年（1634）江戸城外廊拡張に伴う外濠新設の為、幕府の政策により濠の外に集団的に各寺院を配置し、西念寺もその際に現在地に至った。

昭和20年（1945）5月、戦災により全ての建物は焼失し、昭和36年（1961）11月本堂再建がなされた。



服部半蔵



服部半蔵正成公の槍



服部半蔵正成公の墓

（東広島市高屋町造賀正願寺）



「柏原春季彼岸会」（柏原説教堂）

講師 行友浩師

三月二十二日（金）

昼席・夕席

*仏教婦人会主催法要
*仏婦会員追悼法要・仏婦総会開催

（広島市佐伯区湯来町西法寺）

講師 吉崎哲真師

三月一日（金）	午後一時半	追悼法要
二月二日（土）	午前十時	
	午後二時	朝席
	午後二時	昼席
	午後二時	総会
	午後二時	昼席

「仏教婦人会報恩講」（善教寺本堂）

門信徒祥月命日法要（善教寺本堂）
二月十六日（金）午後一時半
*毎月十六日に本堂において勤めております。

今後の法要スケジユール

ご縁に感謝
善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>
メール zenkyo@otera.or.jp